

# 舟越桂 私の中のスフィンクス

THE SPHINX IN MYSELF  
FUNAKOSHI KATSURA

舟越桂(1951年盛岡市生まれ)は、今日の日本を代表する具象彫刻家であり、その彫刻は内外で高い評価を獲得してきました。

その、大理石の玉眼を使った木彫半身像は、繊細な表情を捉え、静かで瞑想的な雰囲気をもたらしています。それは、なによりもまず、身体全体を表現の根幹とする西洋的な規範から距離を置く独自の彫刻の構築でありました。このような肖像性に傑出した舟越の彫刻ですが、一方で、1990年代の半ば頃から、ヤスや双頭、山をダブルイメージさせる体など、異形の姿が頻繁に現れます。舟越は、そこに豊かな意味を包含し、表現の拡充を図りつつ、顔と半身との関係性、全体の統一性といった造形的な課題に取り組んできたのです。

さらに、2003年から本格化する裸体像によって、顔に焦点の当たった従来の表現と、ボディを表現の核とする西洋的な規範の両方を統合する方向に進みはじめた舟越が、その試みを集約的に行ったのが、翌年からの「スフィンクス」シリーズです。同シリーズ以降、その異形性についても統合と関係しながらより大きく展開され、より豊かな世界を開示しつつあります。まさに舟越の円熟を示すものといえるでしょう。

本展覧会では、以上の流れを踏まえた上で、「スフィンクス」シリーズをひとつの核とし、それ以前からの異形の流れを追い、さらに、最新作も加えて、舟越が追究してきた造形の核心とその魅力に迫ります。



1.《冬の本》1988年 作家蔵 撮影：菅高仁／2.《鬼(鬼の子)》1992年 東京都現代美術館蔵 撮影：早川圭一／3.《鏡像に立つ山》1996年 個人蔵 撮影：今井智己／4.《雪の上の影》2002年 札幌芸芸の森美術館蔵 撮影：佐藤雅夫／5.《点の中の距離》2003年 中野隆二郎記念旭川市彫刻美術館蔵 撮影：中村剛一／6.《おのちのスピクス》2010年 西村画廊蔵 撮影：渡邊郁弘 ©FUNAKOSHI Katsura, Courtesy of Nishimura Gallery

## ■会期中のイベント 1

第4回連続講座(参加費無料、事前申込)  
2016年2月14日[日] 午後2時から  
講師：舟越桂氏 演題：「白について」  
会場：美術館講堂

## お申込み方法

往復はがきによる事前申込(定員150名/応募者多数の場合は抽選)  
はがきの往信面に①お名前②住所③お電話番号④ご希望の人数、返信面に返信先のご住所と氏名をご記入の上、〒514-0007 三重県津市大谷町11 三重県立美術館「連続講座」係 宛にお送りください。  
(2016年1月8日[金]必着、業書1枚につき2名様までお申込みできます。)

# スペインの彫刻家 フリオ・ゴンサレス展

Retrospective: Master of Iron Sculpture  
JULIO GONZÁLES

フリオ・ゴンサレス(1876-1942)は、「鉄の彫刻のバイオニア」として名高いスペインの彫刻家です。バルセロナで生を受け、十代の頃から金工細工師の父の下で修業を積み、優れた技量を発揮します。一方で世紀末のバルセロナを席卷した芸術様式「モダリニスム」に触れたゴンサレスは、次第に画家になる夢を膨らませ、1900年に一家でパリへと移住します。芸術の都パリでは、故郷スペイン出身の芸術家や作家たちと親しく交わり、その中には若き日のピカソ(1881-1973)やガルガーリョ(1881-1934)の顔もありました。

始めは絵画に関心を寄せていたゴンサレスが彫刻へと軸足を移していくのも、こうした人々との交流の結果です。特に、1928年

から31年頃まで続いたピカソとの共同制作では、円熟期を迎えた2人の芸術家の個性がぶつかり合い、その経験は1930年代のゴンサレス作品の展開へと大きく影響を与えます。ピカソとの共同制作において初めて彫刻に導入した「溶接」という技法は全く新しい形態を生み出し、ゴンサレスが20世紀の芸術に対して行った最も重要な貢献であると言えるでしょう。

本展はゴンサレスの芸術を体系的に紹介する初めての機会となります。バレンシア現代美術館(IVAM)のコレクションを中心に構成された約100点は、ほとんどが日本初公開となる貴重な作品ばかりです。スペイン近現代彫刻を代表する作家ゴンサレスの世界をこの機会に是非ご堪能ください。



7.《マフネ》1937年頃／8.《鏡の前の顔》1934年頃／9.《切り抜かれたマスク(小)モモンセ》1930-33年頃／10.《アルカン/ピュロ、あるいはコロソピー》1930年頃／11.《花(菊)》1890-1900年頃  
すべてバレンシア現代美術館蔵 ©IVAM, Institut Valencià d'Art Modern

## 三重県立美術館 Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007 三重県津市大谷町11  
Tel.059-227-2100 Fax.059-223-0570  
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

## ■会期中のイベント 2

ディレクタートーク(館長によるトーク)(事前申込不要)  
2016年3月20日[日] 午後2時から  
【舟越桂展とフリオ・ゴンサレス展、2つの展示についてご紹介しします。】  
会場：美術館講堂

## ○交通情報

近鉄JR津駅西口から徒歩約10分、または、津駅西口1番のりばより、三重交通バス「西国地循環」、津西・ハタケ行き(東国地経由)、「夢が丘団地行き(総合文化センター前経由)」、「総合文化センター行き」のいずれかに乗車約2分、「美術館前」下車徒歩約1分

## □次回企画展

猫みれ展(企画展室)  
2016年4月23日[土]—6月26日[日]  
増進行仁写真展(県民ギャラリー)  
2016年5月14日[土]—6月19日[日]

